



# 招提北中だより

枚方市立招提北中学校  
H29.10.11(水)  
発行者：校長 山本俊夫

## 本校の先生が新聞に掲載されました

10月5日付読売新聞朝刊に、本校の光井先生の記事が掲載されていました。翌日の6日の生徒朝会でも紹介しましたが、紹介する前にすでに気づいて読んでいた人も多くいました。光井先生のところには、卒業生からも多くの連絡が入っていたようです。私も先日、妻の実家に行ったときに、「これって、あなたの学校の先生？」と切抜きを見せられました。多くの人たちに、招提北中学校の頑張りを知らせることができたことは良かったなと思います。

記事の内容は以下のとおりです。

### 公演増 やる気育む

### うちのセンセイ@大阪

2年前に着任し、吹奏楽部の顧問となつて以降、これまでの秋、春の演奏会に加え、クリスマス、バレンタイン、サマー各コンサートと、聴衆の前に立つ回数を増やしてきた。「拍手をもらえれば、生徒の自信になる。頑張ろうと思う機会をつくってあげたくて」と話す。

部は昨年度、コンクールの関西大会で銀賞を受賞。その結果、地元小学校のPTA行事に招かれたり、市制70周年記念イベントでオープニング演奏を任せられたりするようになった。

自身は中学生の頃に吹奏楽に触れ、大阪教育大の音楽コースへ進んだ。在学中にトレーナーとして高校生を指導する中、自己流の悪い癖が取れない生徒が多くいることに驚き、「初めて楽器に触れる中学生に正しい奏法を教えたい」と教諭になった。

部員には、プロの演奏会に多く連れて行くことを心がけているという。「多感な時期だからこそ、本物の音に心を突き動かされる体験をしてほしい。演奏会に行く前後では、生徒の音が明らかに変わるんですよ。」



今年の7月に行われました「枚方市教育フォーラム」でのオープニング演奏、企画のことについては、市関係者にはかなり好評だったようです。今でも話に出るときもあります。

下に今後の予定のイベント出演予定を載せておきます。時間があれば聴きにいらえればと思います。

#### 【今後の吹奏楽部出演予定】

- 10月21日(土) 「HIRAKATA くらわんかーにぼる」 淀川河川公園 13:00~
- 11月11日(土) 「船小まつり」 船橋小学校 10:00~
- 12月10日(日) 「いも煮会」 船橋小学校 時間未定
- 12月24日(日) 「クリスマスミニコンサート」 本校音楽室 14:00~
- 1月7日(日) 「仰星高校ジョイントコンサート」 八幡市文化センター 13:00~
- 1月8日(祝) 「はたちのつどいアトラクション」 本校体育館

## 新聞投稿欄より

新聞を各フロアに設置して約1ヶ月がたちましたが、読んでいますか。今回の光井先生の記事が掲載されたことにいち早く気づいた人もいたことでしょう。「スポーツ」「経済」

「政治」「世界情勢」など、様々な情報が満載されている「情報紙」でもあります。その中で、自分として何か引っかけの「記事」「話題」や様々な「考え」にめぐり会えるかもしれません。

私はよく「コラム(投稿)欄」を読むことがあります。様々な年齢の人が、自分の思いや考え、感じたことなどを400字程度にまとめて投稿したものが掲載されています。どうしても中学生の投稿が気になり、読むことが多いです。最近読んで気になった投稿を紹介します。

「気づきが職業」という教え  
S・R 十三歳  
先月、特別養護老人ホームで3日間、職場体験学習をさせていただきました。音楽療法で昨年寄りといっしょに歌を歌ったり、食事をするお手伝いをしたり、入浴の準備をしたりと、貴重な経験ができました。  
一番感じたことは「気づき」の大切さです。私たちが指導くださった介護士の方は「気づきが職業」とおっしゃっていました。  
うまく思っていることを相手に伝えられないお年よりも少なくないので、「この人は今、こうしてほしいのではないか」「これを持ってあげた方がいいかもしれない」と、何事もいち早く気づいて行動することが大切だと教えていただきました。  
実際にその方はテキパキと、常に何かに「気づいて」行動されていていました。私も将来、働くようになったら、このように動けたらいいなと思いました。  
あいさつや時間厳守の大切さも身にしみて分かったととても有意義な3日間でした。

平和は当たり前でない  
F・I 十四歳  
社会科の授業で、私は戦時中について深く知ることができました。  
原爆から70年以上たった今、戦争や原爆を体験した人が少なくなっています。しかし、これまでの歴史を忘れてはいけません。過去の出来事を反省することで、今をよりよく生きることで、今をよりよく生きることで、多くの人が亡くなりました。周りに迷惑をかけるからといって、自らの手で泣き叫ぶ赤ちゃんを殺す人もいたそうです。何も悪くない人たちが、戦争に巻き込まれ、尊い命を奪われました。ですが、これらのことを今の私たちのような若者が想像することは難しいです。それは平和な時代に育ったからです。私が最も恐ろしいと思うのは、平和が当たり前だということを持つことだと思います。戦争での悲惨な経験があったからこそ、平和の大切さを痛感し、平和を努力して守ってきたのだと思います。戦争を知ることによって、平和の大切さをもっと知りたいと思いました。

相手の目を見て笑顔で  
S・N 十五歳  
先日、私は甘いものを買いにコンビニエンスストアに入りましたが、目を見て笑顔で丁寧に対応してくれました。お菓子を一つ買っただけでしたが、塾で疲れてきたときだったので、とても良い気持ちになりました。最近、目を見ながらこちらに寄り添って対応してくれる店員さんが少ない気がします。どこかマニュアル通りにこなしている感じが伝わってくるものが多いのです。形としての礼儀や言葉はもちろん大切ですが、その気持ちが大前提だと思います。礼儀正しい日本人でも、これでは日本を訪れる外国人をがっかりさせてしまいます。2020年の五輪に向けても改善すべき点のひとつだと思います。お店で何かを購入することは一瞬の出来事ですが、心に残ることもあるのです。私も友達や先生と話するときには、たとえ小さな用事であっても、きちんと相手の目を見ることができると笑顔が心が見えるしたいと思います。

各新聞社によって投稿コーナーのネーミングは違いますが、「みんなの広場」(毎日)、「気流」(読売)、「voice 声」(朝日)、「ひこぼえ倶楽部」(産経)などです。みなさんも一度投稿してみてもいいでしょうか。(実際は氏名・都道府県・市町村名が出ていますが、今回は匿名としました。)